〈中学校　英語〉

実践的コミュニケーション能力を育てる指導の工夫
―小学校英語活動を基盤としたペアワーク・グループワークを通して―

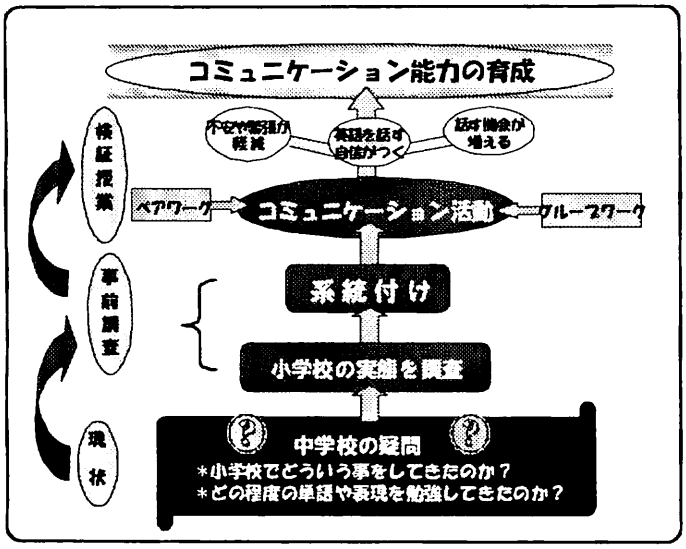
糸満市立高嶺中学校教諭　赤　嶺　直　美

1　研究のテーマについて

小学校英語活動が充実してきた今，「授業を見直さなくてはいけない。」とここ数年思い続けてきた。そして「小学校ではどんなことをやってきたのか。」，「小学校での活動をどう活かしながら，中学校の学習につないでいくべきか。」ということを自分自身に問いかけながら研究を進めてきた。小学校英語活動の実態を調査し，中学校においても，「コミュニケーション重視」の授業が展開できるような指導の工夫を目指した。

2　研究の特徴

小学校英語活動と中学校英語学習を系統付け，コミュニケーション能力の育成をめざす



ペアワークでの
書く活動
（現在進行形を使って）

グループワークでの
話す活動
（他己紹介）

3　指導の実際

小学校英語活動と中学校英語学習の系統付け

小学校英語活動の音声でふれてきた単語や表現を整理し，中学校の英語学習に系統付けることで，充実した学習を目指した。中学校１年生の教科書の単元ごとに系統性を示し，発展的な活動を考えた。

ペア・グループワークでの活動

「話すこと」，「書くこと」を中心に，多くのコミュニケーション活動を行った。ペア・グループワークを通して，お互いが協力し合い，学び合いながら，学習を進めることができた。

4　研究の成果

小学校英語活動の実態を知ることで，中学校ではどのように学習をつなげ，充実させていくべきか，糸口が見えてきた。

生徒はペアワークグループワークの多くの活動を通して，英語を話したり，書いたりすることへの積極性がでてきた。

実践的コミュニケーション能力を育てる学習指導の工夫
～小学校英語活動を基盤としたペアワーク・グループワークを通して～

糸満市立高嶺中学校教諭　　赤嶺　直美

Ⅰ　テーマ設定の理由

求められる英語指導の改善

小学校英語の本格的実施に向けて

「英語が使える日本人の育成」が叫ばれ，全国の公立小学校で英語活動が実施されている。平成19年に文科省より発表された小学校英語活動実施割合は95.8％と高く，平成23年には高学年において必修化される運びとなった。特にここ数年，小学校英語活動の成果が出始め，中学校に入学してくる生徒の英語のリスニング力の向上など変容を感じている。小学校英語活動で英語にふれてきた生徒を受け入れる中学校においては，教師の授業に対する意識の改革，学習指導の改善など，早急な対応が求められている。

児童・生徒の実態

小学校英語活動

小学校英語活動のねらいは①コミュニケーション能力の向上を図る，②言語や文化についての理解を深める，③英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことをめざす，という3点で，音声を重視した活動が行われている。そのような活動の中から，児童は早くから英語に慣れ親しみ，「話すこと」への抵抗が和らぎ，英語を使おうとする態度が身についてきている。早い時期から実施されている体験活動を通して，積極的にコミュニケーション活動を行おうとする姿勢が自信や主体性へとつながり，活動の成果が現れつつある。一方，英語活動に不安や戸惑いを覚え，意欲的に参加できないことから，興味，関心を失いかけている児童もおり，その対応等について考える必要がある。

中学校入学時

中学入学時の生徒は，簡単な英語の表現を聞き取る力がついており，これまでの「ゼロからのスタート」を前提とした授業を見直す必要が出てきた。今年，本校に入学してきた生徒に対して5月にアンケートを実施した結果，91％の生徒が中学校で学習する英語に期待しており，さらに「もっと単語を覚えて話せるようになりたい。」「早く英語を書いてみたい。」と英語学習に対する前向きな姿勢も見られた。これは，小学校の段階で音声に慣れ親しみ，コミュニケーション能力の基礎が培われ，学習への意欲が高まってきたと考えられる。

中学校の課題

しかし，中学校英語の学習指導は，小学校との連携がまだ十分ではなく，生徒がどのような単語や表現を，どの程度ふれてきているのか把握できていないことが多い。小学校英語活動が充実しつつある今，中学校では英語の指導方法を見直す段階に来ていると考える。これからは，中学校の学習内容を小学校英語活動と系統づけて充実させる学習指導の工夫が必要である。

本研究において

小学校英語活動の実態把握

そこで本研究では，まず小学校英語活動の内容を調査し，単語や表現を整理していく。その内容を把握することで，中学校での学習へなめらかにつないでいくことができ，学習を充実させることができると考える。次に小学校英語活動と中学校初期の学習を系統づけ英語学習の基盤とし，それを活用したコミュニケーション活動を考えてみたい。これまで慣れ親しんできた単語や表現と中学校で新しく学習することを織り交ぜながら活動することで，生徒の関心が高まり積極的な活動が展開できると考える。その中で，生徒同士が英語のやりとりを繰り返すことで，英語の運用能力が高まり，実践的コミュニケーション能力が育成できることが期待できる。

系統付け

ペアワーク・グループワークの必要性

授業の中では話したり，書いたりする場を多く設ける。その方法としてペアワーク・グループワークを取り入れてみる。学級をペアやグループの小集団に区切ることで，多くの

人の前で話したりすることに抵抗がある生徒の不安や緊張感を和らげることができ，自分の考えを表現しやすくなる。さらに，一人一人の活動する機会が多くなり，英語で話したり，書いたりすることへの自信にもつながることが期待される。

以上のことから，小学校英語活動の内容と中学校の学習内容を系統的に結びつけ，コミュニケーション活動を充実させる場を設ける学習指導の工夫を行えば，実践的なコミュニケーション能力を育てることが期待できると考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説と検証計画

1　研究仮説

小学校の英語活動の現状について調査し，単語や表現を整理することで中学校英語の学習内容に系統づける。その内容を基盤とした授業で，ペアワーク・グループワークで活動する場を多く設ければ，実践的なコミュケーション能力を育てることができるだろう。

2　事前調査・検証計画

事前調査	・調査内容：小学校６年生までにふれた単語や表現の種類，活動内容 ・調査方法：インタビュー，アンケート ・実施時期：11 月 ・調査対象：島尻管内各市町村の小学校（ＡＬＴ，ＪＴＥ，学級担任　計８名） ・系統付け：①小学校６年生までにふれた単語や表現を整理する。 ②中学校１年生の各単元に結びつける。

検証授業の対象	第１学年１組　標準クラス　（男子 13 人　女子 17 人　計 30 人）	
検証場面	検証の観点	検証の方法
検証授業　展開（ペアワーク グループワーク）	**①小学校英語活動と中学校英語学習を系統付けた授業は役に立ち，いろいろな表現を使うことができたか。** **②小中を系統付けた学習内容を基盤とした授業でペアワークやグループワークで活動すれば，実践的コミュニケーション能力を育てるのに効果があったか。**	・授業観察 ・授業後のアンケートの分析
実験群(1 年 1 組)と統制群(1 年 2 組)の比較		・検証授業後のアンケート及び事前・事後のテストの分析
小学校英語活動と中学校英語の学習を系統付け，ペアワーク・グループワークで活動の場を設けることは，実践的コミュニケーション力を育てるのに有効であったか。		

Ⅲ　研究内容

1　実践的コミュニケーション能力を育成するために

実践的コミュニケーシ

(1) 実践的コミュニケーション能力とは

松元茂(1999)による「実践的」とは，本来その場，相手，目的などに応じて，コミュニケーションを展開することができる要素としている。そして，「コミュニケーション」とは，言葉を聞いたり，話したり，読んだり，書いたりすることによって，自分の考えを相手に伝え，相手の意向などを理解しようとすることである。

カナーレイ(Canale,1983) はコミュニケーション能力を次の４つから構成されていると提案している。

表１　カナーレイの提案

文法能力	単語，形態，統語，意味，音韻面にわたって文法的に正しく言語を操る能力
社会言語能力	社会文化的な状況に配慮して適切に言語が使用できる能力
談話能力	意味のつながりや論理の一貫性を考慮しながら，まとまりのある発話や文章を構成したり理解したりできる能力
方略的能力	意味的なつながりを見いだせる能力，何とか相手に意図を伝えようとする能力

コミュニケーションへの意欲や能力を高める

コミュニケーションにおいて，相手に意思を伝えるのが困難な時，何とか意思を伝えようと，自分が知っている文や語を言い換えたり，繰り返したり，身振りなどを使う。特に英語を学ぶ初期の段階では，文法的な間違いを恐れず，積極的に話そうとする行為が，コミュニケーションへの意欲や能力を高める場合が多い。授業におけるコミュニケーション活動の中で，生徒が間違いを恐れず，知っている言葉を使おうとしたり，言葉を置き換えたりする行為は，コミュニケーション能力を育成する上で有効な方法であると考える。

本研究では，授業の中に，英語で話したり，書いたりする訓練する場を多く設け，実践的コミュニケーション能力を育成することを目指していきたい。

(2) 実践的コミュニケーション能力の育成

授業におけるコミュニケーションの場の設定

実践的コミュニケーション能力を育成するためには，実際にコミュニケーションを行うことがより効果的である。しかし私達を取り巻く環境としては，英語の授業以外で英語を使う環境がほとんどないため，英語の授業においてコミュニケーション活動を重視していかなくてはならない。授業では，次の点に注意し，コミュニケーションの場を設定していく。

① 生徒が活動しやすい，話しやすい雰囲気や環境を設定する。
② 身近な話題や興味・関心を引く教材を工夫する。
③ ペアワーク，グループワークを多く取り入れ，全員が発話できる機会を設ける。
④ 自己表現を多く取り入れた題材を選ぶ。

(3) 自己表現を中心とした授業

自己，他者との関わり

自己表現とは，自分の思いや考えを伝えることである。私達の生活の中で行われる活動の多くは自己表現活動である。実際に経験したこと，日常的な話題，日頃関心を抱いていることや自分の思いを伝えたりすることで，自己，他者との関わりもつことができ本当の意味でのコミュニケーションを取ることができる。自分のことを英語で伝え，理解してもらう喜びは学習者にとって大きな励みとなり，知識だけではなく，意欲，関心を高めることにもなる。自己表現活動を中心とした授業を展開することは，生徒に自分自身に関わる情報や事柄を，自分の力で考えてやり取りしようとする力を育成することができる。

自己表現を中心とした授業には，「書き言葉による表現」「話し言葉による表現」「絵などを使った表現」「身体を使った表現」があるが，本研究では，特に「書き言葉」と「話し言葉」に注目する。

田中武雄・田中知聡(2003)と Tadashi's Room を参考に，自己表現を中心にする授業から実践的コミュニケーション能力の育成への系統図を示した（図１）。

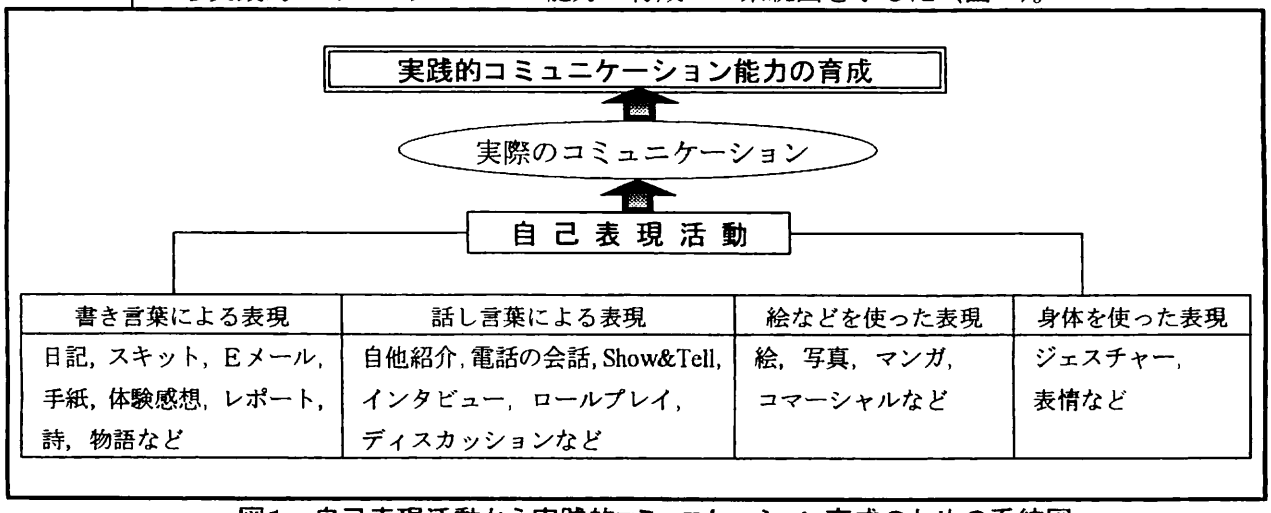


図1　自己表現活動から実践的コミュニケーション育成のための系統図

2　ペアワーク・グループワークについて

(1) ペアワークとグループワークの効果

英語の学習活動には，個人，ペア，グループ，一斉があるが，コミュニケーション活動を活発にするためにはペアワーク・グループワークを多く活用するとよいと考える。また，実践的なコミュニケーションを展開するには，単なる口頭練習の繰り返しや，単語を入れ替えるだけの機械的なドリルでは実現できない。自分のこと，実際のものを表現するような場面をできるだけ多く設定し，表現していくことが活動には欠かせない。

自分のこと，実際のものを表現する場面

授業でペアワーク・グループワークを取り入れた場合，次のような効果が期待される。

① お互いに会話を交わすことで，アイデアを出し合ったり，発想を膨らませることができる。

② 共に学び合うことで，信頼感や安心感が生まれ，和やかな雰囲気がつくれる。

③ 英語を話す機会が増える。

④ 一斉授業では，なかなか発表できない生徒や集中力に欠ける生徒でも活動できる。

⑤ 生徒の表現意欲や学習意欲が高められる。

(2) 学習教材・教具，場面設定の工夫

ペアワーク・グループワークを行おうとする時，与えられた教材・教具や場面設定で活動の様子が変わってくる。多様な教材・教具を提供することで生徒のやる気を高め，コミュニケーション活動を活発に行わせることができる。自分達の活動に満足感を持つとで，英語に対する意欲・関心も高めていけると考える。コミュニケーション活動を成功させるためにも，教材・教具の工夫，場面設定の工夫が不可欠である。

3　小学校英語活動についての調査結果

小学校英語活動と中学校英語学習を系統付けるために，小学校の英語活動の現状と中学校から見た小学校英語活動について調査しまとめてみた。

(1) 小学校の現状

多岐にわたる英語活動の取組が活かされ，中学校に入学してくる生徒は高いリスニング力をつけ，英語に対する関心も高い。そういう生徒を受け入れる中学校の教師にとって，小学校の英語活動の実態を把握することが大切なことであるが，実際には多くの中学校の英語教師は，小学校でどのような英語活動が展開されているのかを知らないのが現状である。そこで今回，小学校の授業参観を行い，島尻管内のＡＬＴ（６人）やＪＴＥ（２人）に英語活動の状況についてインタビューを行った結果，次のようなことがわかった。

ALT, JTEにインタビュー

① 活動状況

ア　音声を中心に，児童の日常生活の中での身近な英語を取り上げている。

イ　興味・関心や意欲の育成をねらった，歌やゲーム，クイズ，ごっこ遊びなど様々な活動をしている。

ウ　幅広い範囲で，多くの単語にふれている。

エ　表現においては中学１年生の教科書の基本文のほとんどを音声でふれている。

オ　異文化理解の活動を通して，歌，ゲーム，食べ物の紹介など行い，発想豊かな活動している小学校もある。

カ　校内の体制作りが強化され，英語活動部の設置や校内研修の充実など各学校で取り組みが始まりつつある。

② 小学校英語活動の内容

小学校でふれた単語，表現の紹介

各市町村のＡＬＴやＪＴＥに活動状況や課題についてのインタビューと小学校を卒業するまでにふれる単語や表現などのアンケート調査を行った。その単語と表現を紹介する（**表２**）。

表２　小学校英語活動における単語，表現例　　（詳細は別紙資料Ａ）

語彙	*Fruit*（果物） *Vegetable*（野菜） *Meat/Seafood*（肉/魚介類） *Dairy Products/Snacks*（乳製品/ パン/菓子類） *School*（学校） *Subject*（教科） *Stationary*（文房具） *House*（家，家具，家庭用品） *Place*（場所） *Sport*（スポーツ） *Job* 職業） *Family*（家族） *Animal*（動物） *Insect*（昆虫） *Color*（色） *Body*（身体） *Face*（顔） *Nature*（自然） *Halloween*（ハロウィーン） *Christmas*（クリスマス） *New Year's Day*（お正月）
	簡単な動詞，副詞，形容詞
表現	あいさつ，日付，曜日，天気，be 動詞肯定文・疑問文，一般動詞の肯定文・否定文・疑問文，疑問詞を使った文とその応答文，現在進行形の肯定文，助動詞 can の肯定文・疑問文，命令文

③　課題

ア　現在，島尻地区の各市町村において教える内容が統一されてなく，学校単位で活動内容が違う場合がある。

イ　各学校のＡＬＴやＪＴＥに学習内容が委ねられ，中学校へ入学するまでの活動内容内容の規準が示されていない。

ウ　２校以上の小学校から入学してくる生徒たちの英語の習熟度に差があり，中学校での指導にとまどう場面がある。

以上のことから，小学校英語活動を中学校英語学習を円滑に移行するためにも，島尻管内または，各市町村単位の活動内容の確認が求められていると感じた。

(2)　中学校の立場から見た小学校英語活動

小学校英語活動に関するアンケート

年々小学校の英語活動が充実し，これからは小学校英語活動を基盤に中学校の英語学習を充実，改善させていくことが中学校の役割であると考える。小学校英語活動から中学校英語学習へなめらかにつなげていくためには，これからの小中の連携が重要になってくると思われる。そこで島尻管内の中学校英語教師50人に小学校英語活動に関するアンケートを実施した結果，下記のようなことがわかった。

※アンケートの質問項目は，松本禮子　大下邦幸（2007）を参考

①　小学校から英語にふれてきている生徒にどのような印象を持っていますか（複数解答）。

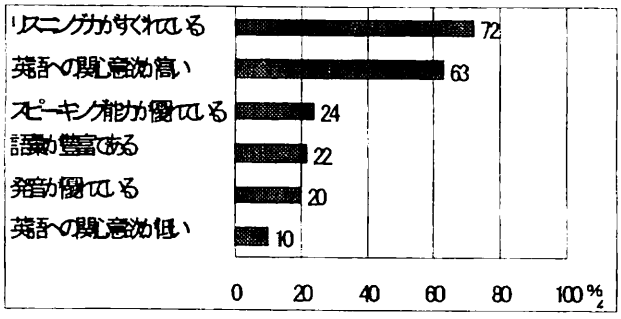


図２　小学校英語活動を経験した生徒の印象（50人）

《考察》アンケートに答えた多くの教師が，小学校から中学校へ入学してきた時点でリスニング力や英語に対する関心，意欲が高いことを感じている。これは，音声や楽しむことを重視してきた小学校英語活動の成果が現れていると推測する。一方，早くから英語に対する関心，意欲が低い生徒がいることも見逃せない。

②　小中互いの英語の授業参観を行っていますか。

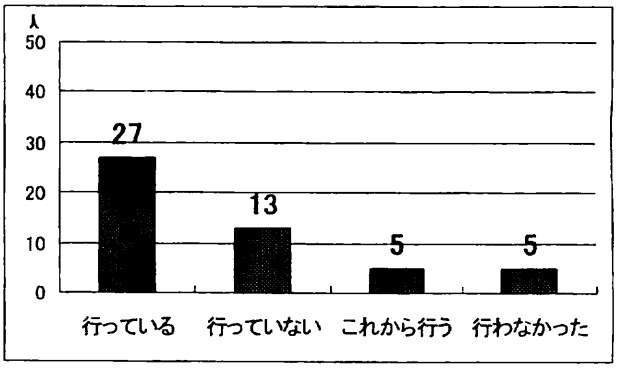


図３　小中間の授業参観の実施　（50人）

《考察》約半数の英語教師が授業参観を行っているが，時間がとれず，授業参観が設定できないという現状がある。記述から，小中間の交流も主任や係のみという学校もあり，英語を担当する全職員には実施されていないということがあった。また，授業参観とは別に，月に１，２回，定期的に連絡会を持っている市もあり，地域，学校間で取り組みに差が見られる。

③　小学校の英語活動にどのようなことを期待しますか（複数回答）。

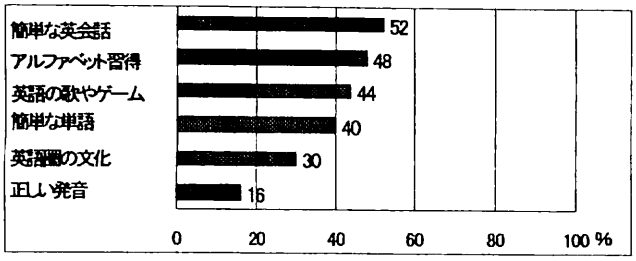


図４　小学校英語活動に期待すること（50人）

《考察》約半数の教師が簡単な英会話や単語，歌やゲームなどの活動を望んでいる。また記述の中から，小学校では，英語に興味を持たせること，これから英語を学ぶ楽しみを教えるということを念頭に英語活動を実施して欲しい,中学校の内容を先取りする授業は控えてもらいたいという意見もあった。文字指導の要望もあるが，これからの小学校英語活動の動向を見ながら考慮する必要がある。

④　小中連携を行う上で，必要と思われることは何ですか（複数回答）。

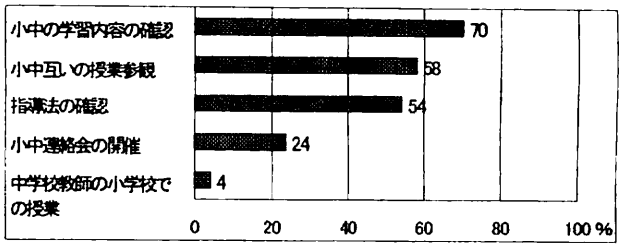


図５　小中連携で必要だと思われるもの（50人）

《考察》50~70%の教師が小学校でふれた内容の確認，お互いの授業参観，指導法の確認を望んでいる。記述の中からは，小学校がどの程度の学習をしてきたのかをふまえた上で，中学校の学習が始められると効果的であるため，小中の学習内容の確認を望む声があった。お互いの授業参観や話し合いで教材や指導法について意見交換をすることも英語活動，学習を充実させることになるという意見もあった。

４　小学校英語活動と中学校英語学習の系統付け

小学校英語活動を基盤としての中学校での工夫

上記③や④のアンケート結果からも，小中の活動，学習内容の確認が必要であると考える。中学校に入学してくる生徒のほとんどが，中学校１年生で学習する多くの単語や表現を音声でふれてきている。中学校では，小学校で培ったコミュニケーションへの積極性を大切に，また英語への興味・関心を持続し，発展できるようにさらに音声を重視していくことが必要になってくる。小学校から中学校へなめらかにつないでいくことで，小学校の英語活動を基盤に中学校の学習に系統付けていく充実した学習が期待できると考える。

授業での系統付け

本研究においては，表３の順序で授業を展開することを考えた。まず中学校１年生の教科書の各単元の新出語，基本文と小学校英語活動内容を系統付ける。次に，その内容を充実させるために表４にある活動を提案する。実際の英語使用の場面に近いペアワークやグループワークでのコミュニケーションの場を設定することで，生徒の知的好奇心を喚起することを目指していく。

表３　授業での系統付け

事前準備	①　小学校の英語活動（単語，表現）を整理する（表２）。 ②　中学校１年生の各単元と小学校の英語活動（単語，表現）を結びつける。
授業の展開	③　授業で，小学校の英語活動（単語，表現）を振りかえる。 ④　基本的な文法事項を確認する。 ※小学校でふれた表現に関しては，文法的な位置づけを確認する。 ※未習の文法事項に関しては，小学校でふれた表現に関連を持たせながら導入する。 ⑤　ペアワークやグループワークで学習活動を行う。 ⑥　ペアワーク・グループワークで行った言語活動を振りかえる。
事後指導	⑦　小学校の英語活動（単語，表現）と中学校の学習事項が系統的に結びつけられ，積極的なコミュニケーション活動ができたかどうかを確認する。 （アンケート，確認テスト）

表４　中学校１年小学校英語活動の系統付けと指導の工夫　　（詳細は別紙資料Ｂ）

New Horizon English Course 1　Unit 7

1　基本文　：**Who is he/she? …　He is my brother/sister.**

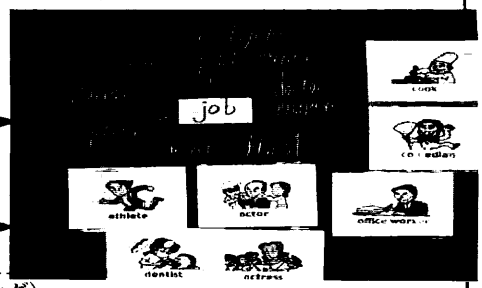
2　授業形態：一斉指導及びグループワーク

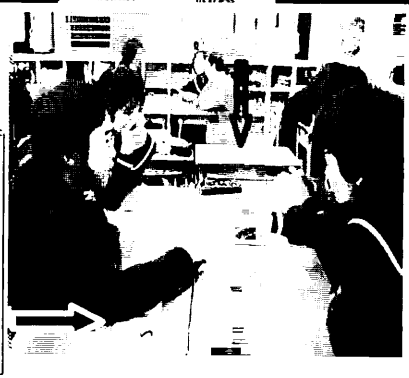
3　学習内容：　Who is he/she? … He is my brother/sister.の文は，小学校３,４年生で音声でふれてきている。中学校では，Who is he/she?の質問に対し,He is my brother / sister. の兄弟の紹介だけにとどめず，自分の架空の家族を紹介する発展的な活動につなげていく。その際，職業や，好きな物，好きではない物，住んでいる場所，趣味などを盛り込みながら紹介していくと，これまで学習したことを復習をしながら単語や表現の幅を広げていくことができる。

小学校の英語活動内容を組み込んだ中学校の学習内容	小学校英語活動における表現
Who is he/she? He/She is my brother/ sister.　He/She is ~ years old. He/She is a (職業).　He/She lives in ~. He/She likes/plays ~.　His/ Her favorite fruit/sport is ~. He/She doesn't like/play ~.　His/Her hobby is/are ~.	Who is he/she? He is my brother. She is my sister. (小学校３，４年生で音声でふれている)

4　授業展開例

活動確認	小学校の	○知っている職業の名前の確認 (一斉指導・ブレインストーミング) farmer　pilot　teacher　firefighter　baker,　florist fisherman　doctor　~player,　singer　nurse
学習内容	新出単語	○未習の職業の名前　(一斉指導) actor,　actress,　cook,　comedian,　office worker,　athlete dentist,　newscaster　scientist　engineer　lawyer …
	学習活動グループ	○お互い架空の家族を紹介し合う　(ペアワーク・スピーキング) 四人一組になり，黒板の紹介の文の例を参考に，お互いの架空の家族を紹介し合う。 《板書例》 **Who is he/she?** He/She is my brother/sister. He/She lives in ~. He/She likes/ plays ~. He/She doesn't like/play ~. His/Her hobby is ~. 《カードの内容》 name: **Michelle(31)** job: **newscaster** address: **Washington D.C.** likes: **French food** doesn't like: **eggplant** play: **golf** hobby: **watching a movie**
	ペアワーク	○家族を紹介した要領で，実際の友達を紹介するクイズを作る　(ペアワーク) **Let's make a quiz** This is my friend.　He is 13 years old. He lives in Maezato.　He is a big boy. He likes pudding.　He doesn't like social studies. He plalys baseball.　His hobby is reading comics. Who is he?　Answer　(Hyuma)
	まとめ	○授業を振り返り評価を行う ワークシート





Ⅳ　授業実践

(1) 検証計画　(省略　＊８回実施)

(2) 単元名　Unit ９：　クリスマスがやってきた　　New Horizon English Course 1

(3) 単元について

①　教材観（省略）

②　生徒観（省略）

③ 指導観（一部省略）

現在進行形においては，小学校６年生の時に簡単にふれてきているが，どのような場面で，どういう形で使用するのかは，まだはっきり理解していないようである。ペアワークでいろいろな生活場面の描かれたピクチャーカードを使い，お互い尋ね合うことで，「今～しているところです。」という現在進行形を定着させると同時に，表現力，コミュニケーション能力を育てていきたい。ここではまず，小学校でふれたクリスマスに関する語を挙げさせ，未習の語を提示し，系統づけることで単語力や表現力を高めていきたい。

(4) 単元の目標

① 単元目標 （一部省略）

ア 現在進行形（肯定文・疑問文・応答文）の意味，用法を理解できる。

イ 小学校でふれた単語と中学校で学んだ単語や表現を活用し，人が今何をしているところか，尋ねたり，それに答えたりすることができる。

② 観点別評価規準 （省略）

(5) 本時の学習

① 本時のねらい

ア 現在進行形（肯定文・疑問文・応答文）の意味，用法を理解できる。

イ 小学校や中学校で学んだ単語を活用し，人が今何をしているところか，尋ねたり，それに答えたりすることができる。

② 本時の授業仮説

ア 小学校でふれたクリスマスについての単語を基盤に，幅広く単語や表現を盛り込むことで，いろいろな表現活動を行うだろう。

イ ペアワークでお互い助け合いながら活動する場を設ければ，積極的に言語活動を行うだろう。

③ 検証の視点

ア いろいろな現在進行形の表現を使っているか（表現）。

イ 会話の合間に*"I see." "Oh, cool!"* などのリアクションを使っているか（表現）。

ウ 積極的に言語活動に取り組んでいるか（関心・意欲）。

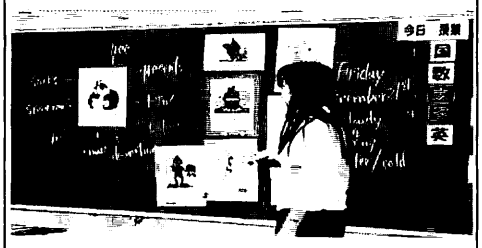
④ 小学校英語活動と中学校英語学習の系統付け

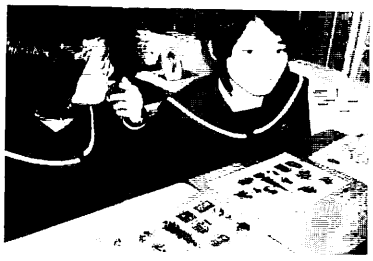
表4 小学校英語活動と中学校英語学習の系統付け

	Unit 9 (1) (2) に関する単語，表現	
	中学校英語学習での新出単語 ※下線語は，小学校英語活動の音声で学習済み	小学校英語活動における単語・表現
名 詞	Unit 9 (1) Christmas, card, kitchen, TV, snow (2) winter, summer, Santa 発展的関連単語 wreath, chimney, reindeer, elf, sleigh, turkey, candy cane, ornament, decoration, stocking mantelpiece, North Pole	Christmas, Christmas card, Santa, presents, candle, milk & cookies, snow, snowman, Christmas tree, kitchen, winter, summer
動 詞 副 詞 前置詞	Unit 9 (1) cook, help, watch, run, around (2) look, at, look at ~, swim 発展的関連単語 bake, decorate, make, read, wash, write, fish, ski, skate, camp, play cards	cook, help, watch, run, swim, look at ~
基本文	What is Koji doing now? … He is cooking now.	I am playing soccer.

⑤ 本時の展開

過 程	学 習 活 動		教師の支援 検 証
	教 師 の 活 動	生 徒 の 活 動	
※ あいさつ（3分），ウォーミングアップ（3分）： 省 略			省 略

めあての確認 3分	○今日のめあてを確認する ① 現在進行形（疑問文・応答）の意味，用法を理解できる。 ② 小学校でふれた単語と中学校で学んだ単語を活用し，人が今，何をしているところか尋ねたり，それに答えたりすることができる。		◎めあてをしっかり確認する
復習 5分	○ブレインストーミングでクリスマスについて小学校でふれた単語を復習させる。	・小学校の英語活動を思い出しながら答える。 《Brainstorm Christmas》 Christmas, Christmas card, Santa, presents, candle, milk & cookies, snowman, Christmas tree, …	◎クリスマスについての単語を思い出させる。 ◎ヒントを与えながら，知っている単語を引き出す。
導入 12分	①クリスマスについて未習の語を絵を使って導入する。 wreath, chimney, elf, reindeer, sleigh, turkey, North Pole, candy cane, ornament, decoration, stocking, mantelpiece bake, decorate, make, ski, read, wash, write, fish, skate, camp, play cards ②現在進行形の形を確認する。 a. 生徒数人に前に出てもらう。 b. 動作の書いてある紙を与え，ジェスチャーで表現する。 c. ヒントを与えながら，現在進行形の文を引き出す。 ・現在進行形の意味，用法を確認する。 d. What is he/she doing? What are they doing? の質問に応答させながら，現在進行形の疑問文の意味，用法を確認する。 e. 例を黒板に示す。リアクションの表現も紹介する。 A:OK, Let's start. (Let's talk about Christmas.) What is Jane doing? B: Well …. *Let me see …, Hm …* *Hm … , Let me see …, Ah …,* *Just a minute. Wait a second.* *Well …, All right. Hold on.* She is baking a Christmas cake! A: *Oh, I see.* *I see. Oh, cool! Great!* *Interesting. Nice! Oh, yummy!* *I wanna try.* B: What are Ken and Tom doing? A: They are playing cards.	・口頭練習を行う。  ・ジェスチャーを見て，今何をしているところかを英語で表現する。 He/She is baking a cake. They are playing cards. What is he/she doing? ・What are they doing? の質問に答えながら現在進行形の疑問文の意味，用法を確認する。 ・板書の例を見ながら，現在進行形の疑問形，応答の仕方，リアクションを練習する。 A: O.K, let's start. (Let's talk about Christmas.) *Hm … , Let me see …, Ah …,* *Just a minute. Wait a second.* *Well …, All right. Hold on.* What is Jane doing? B: *Well …*, he is baking a Christmas cake! A: *Oh, I see.* B: What are Ken and Tom doing? A: They are playing cards. *I see. Oh, cool! Great!* *Interesting. Nice! Oh, yummy!* *I wanna try.*	◎絵を使い，興味をもたせながら導入する。 ◎未習の単語を重ねていくことで単語を増やしていく。 ◎現在進行形の形（be+~ing）を意識させる。
ペアワーク	○コミュニケーション活動 ・ピクチャーカードを使って現在進行形で尋ねたり，答えたりする。 a. ペアを組ませる。 b. それぞれのペアに違った絵のピクチャカードを配る。 c. お互いに尋ねたり，答える練習をさせる。	a. ペアを組む。 b. それぞれ違った絵のピクチャーカードをもらう。 c. 相手の絵を指さしながら，お互いに尋ね	◎各ペアの様子の様子を見ながら，多くの表現を使っていくように助言する。

18分	d. ピクチャーカードにある主語の部分を時々I(私)やyouに変えるように指示する。 e. 自分の表現した現在進行形の数を数え，カードに記入するように指示する。 ・数えるときは，正の字ではなく，欧米式を使ってみるように薦める（卌）。 	たり，答えたりする。 S1: Ok, let's start. What is Jiro doing? S2: *Ah* … He is decorating a Christmas tree. S1: *Oh, cool!* S2: What is Akira doing? S1: He is studying. S2: *I see.* **検　証** ○いろいろな現在進行形の表現を使っているか（表現）。 ○会話の合間に*"I see." "Oh, cool!"* などのリアクションを使っているか（表現）。 ○積極的に言語活動に取り組んでいるか（関心・意欲）。	◎いろいろなリアクションを使いながら，会話を盛り上げていくように励ます。
※ まとめ（5分），あいさつ（1分）：　省　略			省　略

6　授業仮説の検証

授業仮説について，観察者から見た評価と生徒の授業振り返りアンケートから学級全体の評価を考察する。観察は授業者以外の6人で行った。

表5　観察者から見た評価

視点	観　点	評価 A 十分満足できる	評価 B 概ね満足できる	評価 C 努力を要する	検証結果
ペアワーク	・いろいろな現在進行形の表現を使っているか。	・ピクチャーカードの7以上の表現に挑戦している。	・ピクチャーカードの4～6の表現に挑戦している。	・ピクチャーカードの練習が3以内である。	A 63%(19人) B 37%(11人) C 0
	・会話の合間に*I see. Oh, cool!* などのリアクションを使っているか。	・積極的に使って，会話を盛りあげている。	・時々使っている。	・友達，教師に促されて使っている（積極的に使っていない）。	A 63%(19人) B 27%(8人) C 10%(3人)
	・積極的に言語活動に取り組んでいるか。	・わからない単語や表現を質問したり，教えあったりしながら，会話を楽しんでいる。	・協力しながら会話を進めている。	・会話に積極的に参加していない。	A 77%(23人) B 23%(7人) C 0

(1) いろいろな現在進行形の表現を使ったか。

図5の生徒の自己評価より，いろいろな表現を使って会話ができた，まあまあできた生徒が93%（28人），あまりできなかった生徒が7%(2人)であることがわかった。

表5の観察者による評価では，100%の生徒が満足できる，または概ね満足できる結果となった。

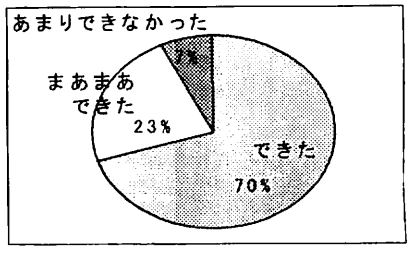


図5 現在進行形を使った表現(30人)

記述から，「絵を見ながらいろいろな動詞を使ってみた。」「習った単語を活かすことができた。」という積極的に表現活動をしようとする前向きな姿勢が伺えた。一方，7%(2人)の生徒から，「どの単語にingをつけたらよいのかわからなかった。」という声があり，文の構造を十分理解していないことがわかった。活動の前に理解度を確認する必要があった。

(2) 会話の合間に"I see." "Oh, cool!"などのリアクションを使っているか。

図６より，90%（27人）の生徒がリアクションを使おうとしてたことがわかった。慣れてくると笑顔でやりとりしたり，いろいろなリアクションに挑戦して会話を盛り上げようとしているペアもあった。表５の観察者による評価からも，生徒の評価と同様の結果となった。あまり積極的ではなかったと答えた 10%(３名)の生徒の記述に「恥ずかしくて使うことができなかった。」とあった。

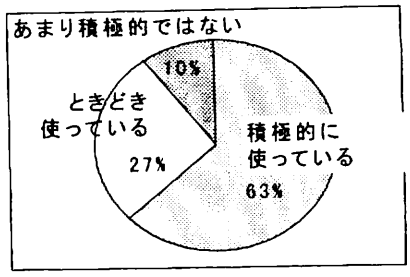


図6　会話の合間のリアクション(30人)

(3) 積極的に言語活動に取り組んでいるか。

図７より，93%（28人）の生徒が話すことができたと評価している。表５の観察者による評価では，100%(30人)の生徒が積極的に取り組んでいたとなっているが，自己評価では，７%（２人）の生徒が活動に納得できず，あまりできなかったとしている。

記述の中から「会話を進めようとしたが，友達もわからなかった。」という意見があった。これは，ペアを組んだ生徒と英語のレベルがほとんど一緒で，どちらもリードできなかったことが原因である。ペアワークでは，組み合わせを考慮することが大事であるということに気づかされた。

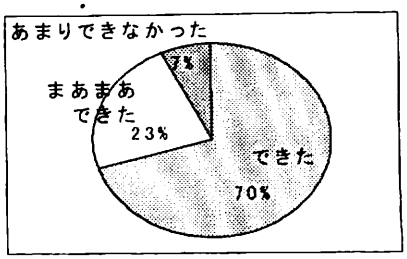


図7　積極的な言語活動(30人)

V　研究の結果と考察

研究の考察は，実験群の毎授業後のアンケートの結果，実験群と統制群のアンケート，リスニングテスト事前（11月），事後（１月）とライティングテスト（１月）の結果をもとに検証を行う。

ここでは，「小学校でふれたことを中学校の授業に系統付けた学級」（1 組・標準クラス 30 人)と「系統付けなかった学級」（２組・標準クラス 30 人)をそれぞれ実験群，統制群とする。

１　小学校英語活動と中学校英語学習を系統付けた授業は役に立ち，いろいろな表現を使うことができたか　（実験群と統制群の比較）

図８は，「小学校で習ったことは,中学校で英語を学習するのに役に立ちましたか。」の質問の結果である。実験群では 97 %(27 人)，統制群では，80%（24人)の生徒が役に立つと答え，実験群の方が統制群を上回った。

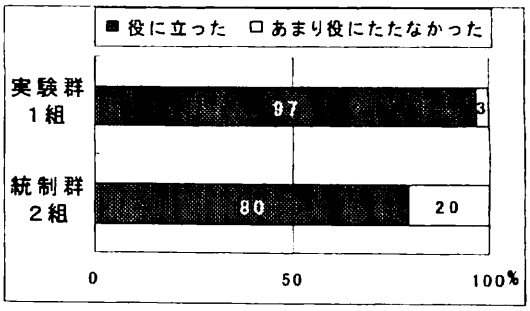


図８　小学校で習ったことは中学校で英語を学習するのに役に立ったか。(実験群，統制群 各30人)

図９からは，小中を系統づけた単語や表現を活用できた生徒が 97%(29人)であることがわかった。記述からは，「小学校で習ったことを思い出しながら勉強するとわかりやすく，楽しくできた。」「小学校で習った英語が使えた。」という声があった。

単語や表現を系統づけることで「わかっていること」と中学校で学習する「新しいこと」を積み重ねていく学習の楽しさを実感でき，習ったことを試してみようとする積極的な姿勢につながってきたと捉える。

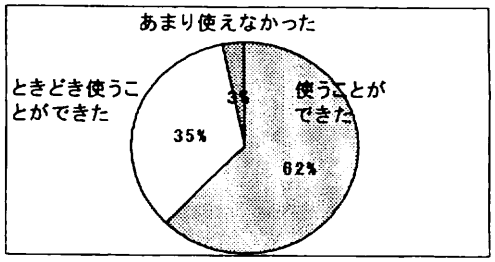


図９　小学校，中学校で習った単語や表現を使うことができたか。(実験群30人)

2　小中を系統付けた学習内容を基盤とした授業でペアワークやグループワークで活動すれば，実践的コミュニケーション能力を育てるのに効果があったか。

(1) 実験群での検証授業後のアンケート結果から

１組の標準クラス 30人において，８回の検証授業を行い，有効性を検証した。但しアンケートは四件法で実施したが，「できた」「できなかった」として結果をまとめ，検証１と検証８でカイ２乗検定を行った。検定は１％水準によるものとする。

ふり返りの学習

① 小学校でふれた内容をふり返り，使うことができたか。

図10より，検証１では，できたと答えた生徒が67%(20人)，検証２～４では80%以上(24人)，検証５～８では90%(27人)以上という結果となり，小学校でふれた内容を徐々に意識するようになってきた。小学校の活動内容を繰り返し復習することで「この単語，表現は知っている。」という自信を持ち，小学校から中学校へ円滑に移行できたと解釈できる。カイ２乗検定の結果から有意な差が出た($\chi^2_{(1)}=9.02, p<.01$)。

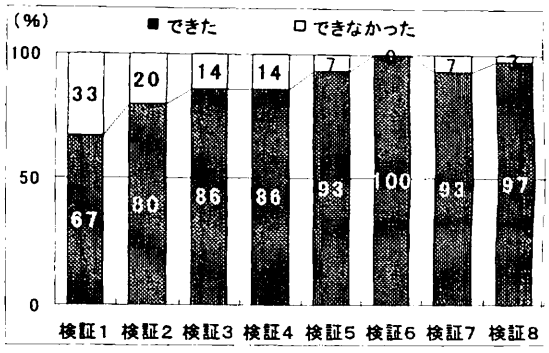


図10小学校の内容をふり返り，使うことができたか　(30人)

② ペアワークやグループワークでは英語をたくさん話したり書いたりすることができたか。

図11より，検証１では，70%(21 人)の生徒ができたと評価していたが，検証４からは，90 %(27 人)以上の生徒ができたと評価している。生徒の記述のからは，「お互いに教えあったり，いろいろなアイディアを出し合い交換た。」とあり，それぞれが刺激し合いながら，学習していることがわかった。ペアワークやグループワークを繰り返し行うことで，英語を話したり書いたりすることへの抵抗が少なくなり積極的にコミュニケーションを行おうとする姿勢が育ってきていると解釈する。

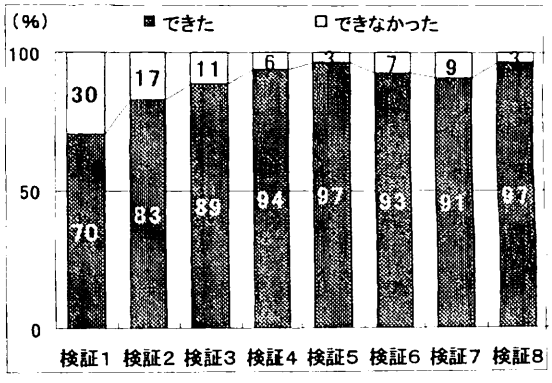


図11 ペアワークやグループワークでは英語をたくさん話したり書いたりすることができたか (30人)

積極的な姿勢

カイ２乗検定の結果から有意な差が出た ($\chi^2_{(1)}=7.68, p<.01$)。

③ ペアワーク・グループワークの中でいろいろな表現を使おうとしたか。

図12より，会話の時にいろいろな表現を使おうと意識した生徒は，検証１，２では 60%台であったが，検証５からは，90%以上の生徒になった。

多様な単語や表現を学習することで「自分や友達のことをもっと英語で表現してみたい。」「この単語，表現も使ってみよう。」という意欲が高まり，いろいろな表現を使うことを楽しむようなってきた結果であると捉える。カイ２乗検定の結果からは有意な差が出た ($\chi^2_{(1)}=10.59, p<.01$)。

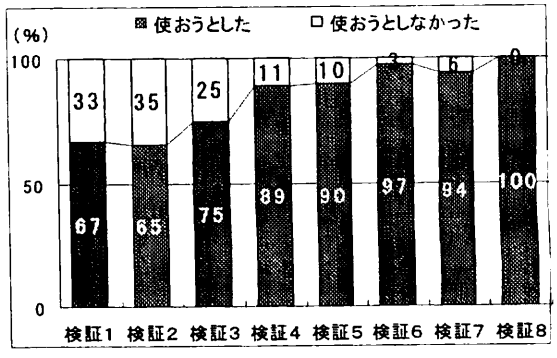


図12　ペア・グループワークの中ででいろいろな表現を使おうとしたか(30人)

以上の①②③の実験群での結果から，小中を系統付けた学習内容を基盤とした授業でペアワークやグループワークで活動すれば，実践的コミュニケーションを育てるのに効果があったといえる。

(2) 事前テストと事後テストの比較

実験群と統制群に対し，リスニングテスト（事前，事後）とライティングテスト（事後のみ）を行った。その結果を相対的に比較し検証する。

① リスニングテスト(30問)の結果から

11月に実施した事前のリスニングテストは，主に小学校英語活動の内容を中心に，1月の事後テストは，検証授業を行ったUnit 7と Unit 9の内容を中心に出題した。

図13より，事前テスト（11月）の正答率は，実験群(1組)は82.7％，統制群(2組）は84%で統制群の平均点が高かったのに対し，事後テスト（1月)では，実験群81％，統制群 78.7％で，実験群が高い結果となった。これは実験群に対して，小中を系統づけた単語や表現を繰り返し聞かせ，意識させてきた成果と解釈する。解答を分析すると，単語の聞き取りに関しては，ほとんど差はなかったが，対話文やリアクションの問題において，実験群の生徒の正答率がよかった。これは，ペアワークやグループワークで行った表現活動が徐々に定着してきたとが徐々に現れてきていると捉えられる。しかし，大きな差は見られなかったことから，短期間の取組では，リスニング力が急激に伸びることは難しいことを表している。実験群と統制群のテストの平均点からt検定を行った結果からも，有意な差はみられなかった。

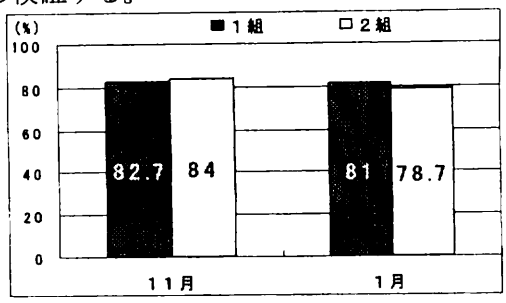


図13 リスニングテスト結果（30人）

② ライティングテストの結果から

ライティングテストでは，小学校英語活動と中学校1年生の単元を系統付けた内容を中心に出題した。その結果，実験群の正答率は 69.7%，統制群は 66.1%で実験群が統制群を上回った（図 14)。問題は，対話文，リアクション，語順， 英作文の4項目で出題したが，全ての項目の正答率で実験群が統制群を上回った。

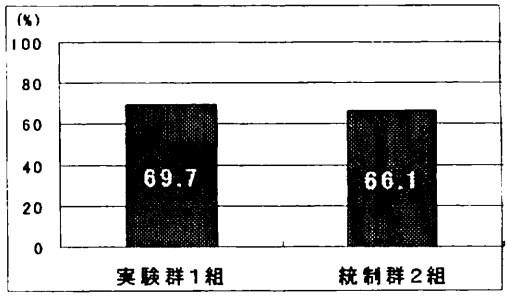


図14 ライティングテスト結果(正答率)
（実験群，統制群 各30人）

以下，項目ごとに正答率を提示し結果を考察する。

○対話文　（実験群：81.4 ％　統制群：77.7 ％） 日頃の授業のウォーミングアップなどで，反復練習していた成果が見られ，実験群が統制群を上回った。教師側が幅広い質問を意識し，繰り返し指導を行うことで，対話の表現の定着が期待できることがいえる。	**○リアクション**（実験群：57.0 ％　統制群：55.4 ％） リアクションを意識的に取り入れた実験群が統制群を上回った。英語のリアクションは，音を一つのまとまりとし，独特な表現もある。会話の中に意識的に取り入れることで効果があったものと捉える。
○語順　（実験群：62.7 ％　統制群：59.3 ％） 実験群において，。ペア・グループワークで口頭練習を繰り返し行ったことで，英文の定着がよく，活動の成果があったと捉える。日本語から英語に直していくのではなく，「英語が自然に発せられる」という理想の形に近づくことができたのではないかと考える。	**○英作文**　（実験群：68.7 ％　統制群：64.7 ％） 統制群では，ほとんどの生徒が，自己紹介の文や，絵の説明文であったのに対し，実験群は，ペア・グループワークで取り組んだ会話の応用であったり，単語や表現を幅広く使っていた。単語のスペルが正しく書けない場合もあったが，積極的に知っている英語を使い,表現しようとする意欲は高く評価できる。

以上，リスニングとライティングテストの結果より，実験群が統制群を上回ったことは，実験群において取組の成果が現れつつあるものとして評価したい。今回のテストにおいては，短期間の試みで，顕著な差は見られなかったが，継続的に指導を行うことで，効果が期待できると考える。

(1)と(2)の結果から，小中を系統づけた学習内容を基盤とした授業で，ペアワークやグループワークで活動する場を多く設けていくことは，実践的コミュニケーション能力を育てることに効果があったと考える。

3　小学校英語活動の現状について調査し，単語や表現を整理することで中学校英語の学習内容に系統づける。その内容を基盤とした授業で，ペアワーク・グループワークで発言する場を多く設けたことは，実践的なコミュケーション能力を育てることに有効であったか。

1と2から，小中の学習内容を系統付けたことで，生徒はこれまでの音声でふれてきた英語を基盤に，自信を持って中学校の学習に取り組むことができた。また，ペアワークやグループワークでの活動を楽しみながら，英語を活用することで，コミュニケーション能力を高めていくことができた。以上のことから，小学校英語活動と中学校英語の学習を系統付け，ペアワーク・グループワークで活動の場を設けることは，実践的コミュニケーション能力を育てるのに有効であったといえる。

今回の研究では，小学校の英語活動の現状を知ることができ，単語や表現を各単元に結びつけることができた。そしてこれから中学校で，英語学習をどのように進めていけばよいのかを考える糸口を見つけることにつながった。

英語に接する時間には制限がある。実践的コミュニケーション能力をつけるために，限られた時間で，どのように生徒に活動の場を与えていくのか，常に意識し考えていく必要がある。

Ⅵ　研究の成果と課題

1　研究の成果

(1) 小学校英語活動の現状を調査することで，小学校英語活動でふれる単語や表現，活動状況がわかった（Ⅲ－3(1)①②③）。

(2) 小学校英語活動と中学校１年生の全単元を系統付け，小学校の活動内容を充実，工夫した授業を考えることができた（Ⅲ－４ ）。

(3) ペアワーク・グループワークで，積極的に話したり，書いたりすることをためらわずに行えるようになった。また，いろいろな表現を使おうとする積極性を養うことができた（Ⅴ－２(2)②③）。

2　研究の課題

(1) 英語科教師間の情報交換，共通理解（小中連携の体制，中学校の指導体制について）（Ⅲ－３(2)）

(2) ペアワーク・グループワークの継続指導（Ⅴ－２(1)）

〈主な参考文献〉

(1) 松川禮子　大下邦幸編著　『小学校英語と中学校英語を結ぶ』　高陵社書店　2007 年

(2) 田中武夫　田中知聡著　『自己表現活動を取り入れた英語授業』　大修館書店　2003 年

(3) 松本　茂　他著　『生徒を変えるコミュニケーション活動』　教育出版　1999 年

(4) 大下邦幸著　『コミュニケーション能力を高める英語授業』　東京書籍　1996 年

(5) 中学校外国語指導資料　『コミュニケーションを目指した英語の指導と評価』　文部省　1993 年

(6) 小笠原林樹　藤掛庄市　編著　『中学校　英語科言語活動』　教育出版　1987 年

(7) コラム『目から鱗～どうする？小学校英語』　http://www.shopro.co.jp/eigokatsudo/column/05.html

(8) 『こんな英語の授業，やってます：Tadashi's Room 実践的コミュニケーション能力』
http://www.iris.dti.ne.jp/~takazawa/a7/a701.html